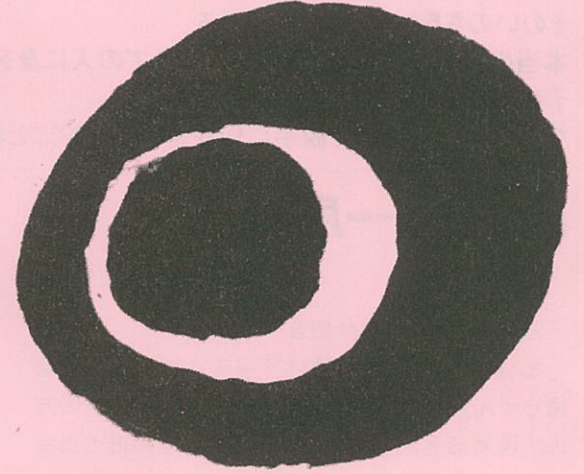
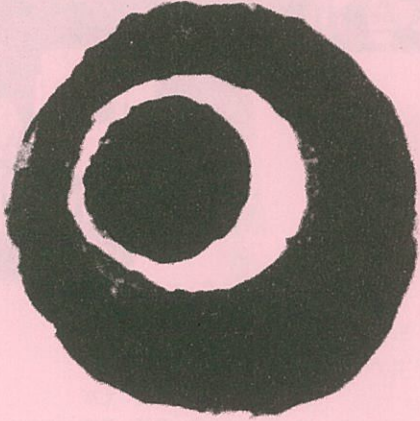
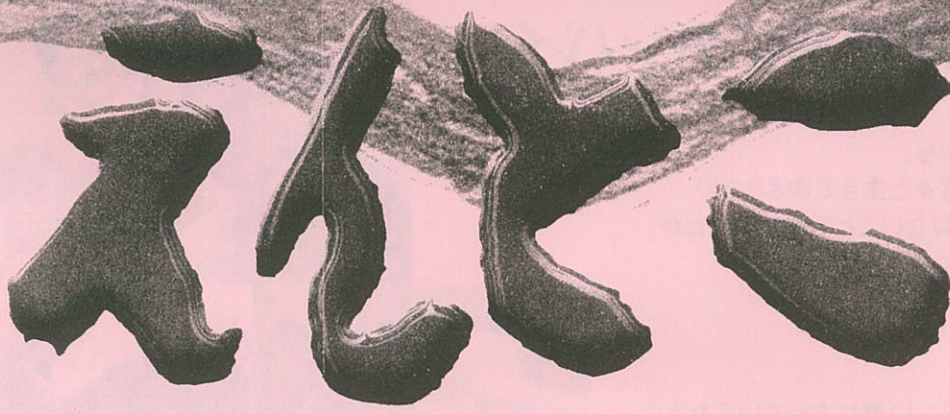


1999年度 伊勢真一 演出作品
カラー / 16mm / 100分
企画・製作 映画「えんとこ」製作委員会
一隅社 / クロスフィット



だって、
君はひとりで勝手に
何かをやってゆくことなんて
出来ないだろう？

「えんとこ」縁のあるトコ。寝たきりの障害者、遠藤滋のいるトコ。
この映画は遠藤滋と介助の若者達との日々を
3年間にわたって記録したドキュメンタリーです。



えんとこ ありのままの命にカンパイ!!

君が今やりたいことを、まっすぐに人に伝えながら、
出来ないことは、みんなに手伝ってもらって、堂々と生きてゆきなさい。
先回りして、人がどう思うだろうか、これは、いけないことではないかとか、
勝手にひとりりで考えてやめてしまう必要なんかないんだよ。
自分から逃げていては、何も始まらない。
そうして、自分が決めてやったことの結果を、
どんなことでもすべて自分で生かしていったら、
その時はきっと、いつの間にか、ますますすばらしい君になっているだろう。
それは、人に迷惑になるどころか、逆に人と人とが直接、
そのいのちを生かし合って生きる。
本当の人のあり方を、君に関わる全ての人に身を持って示して、
それを実現してゆくことになるんだよ。
だって、君はひとりで勝手に何かをやってゆくことなんてできないだろう?



(遠藤 滋「いのちの肯定に立つまでの私の歩み」より)

■「もう一度・・・」

演出・伊勢 真一

25年振りの再会が始まりました。
私は、12年間撮り続けて完成させた映画「奈緒ちゃん」を是非観てもらおうと、大学時代の友人、遠藤滋を訪れ、ベッドに寝たきりの彼と出会いなおすことになったのです。
彼は、寝たきりの生活をもう10年近く続けていると言います。不自由な体を引き受けながら、自立したいという強い意志を持ち介助の若者達の力を借りて、一日一日を丁寧に生きている彼の姿に、心を動かされました。
遠藤が「俺を撮って見ないか?」とさそいかけているようにも思い、再会してまもなく私は撮影の安井洋一郎と共に、「えんとこ」と呼ばれる遠藤と若者達の居場所に通り始めることとなります。そして、ちょっとお茶でも飲み立ち寄るような気楽さで、気ままにカメラを回し、日常のあれこれを記録していきました。
一日24時間三交代、介助の若者達の存在抜きに遠藤は生きてゆけません。

「奈緒ちゃん」「ルーベ」「見えない学校」に続く伊勢監督の新作「えんとこ」は、学生時代の友人遠藤滋との再会がきっかけで製作されました

若者達は、遠藤とかかわることで、実に生き生きとした表情を垣間見せてくれます。命を生かし合う関係、とでも言うのでしょうか・・・。

撮影が始まって3年目の夏、遠藤と若者達につきあって、伊豆の海に行きました。海の中で若者達に支えられながら、歩こうとする遠藤の姿を目のあたりにして、3年間の日々の営みの記録を、映画としてまとめてみようと思いついたのです。

自分の足で歩こうとする遠藤のように、私は生きようとしているだろうか・・・。

もう一度、会うことになるとは思っていなかった、ひとりの友人との出会いなおしから生まれたドキュメント。「えんとこ」と呼ばれるささやかな、けれども切実な居場所の空気のようなものが伝わればそれでいい・・・。

「もう一度・・・」という思いから、もう一度始めてみよう。

- | | |
|-------|-------------------------------|
| 撮影 | 安井洋一郎 |
| 音響 | 米山 靖 |
| 音楽 | 横内 丙午 |
| 録音 | 渡辺 文彦 |
| 照明 | 三浦 方雄 |
| 企画 | 岩永 正敏 |
| 制作 | 野口 香織 |
| | 大場 健二 |
| | 磯塚 昌述 |
| 制作進行 | 助川 浩 |
| タイミング | 笠原 征洋 |
| 絵 | 山下 菊二 |
| 制作協力 | ケア生活くらぶ |
| | 立教大学 |
| | 東京都立城南看護学校 |
| | 高島平はすのみ教室 |
| | 臨海セミナー |
| | ヒボコミュニケーションズ |
| | 東京テレビセンター |
| | 読売スタジオ |
| | ヨコシネ D.I.A |
| 製作 | 映画「えんとこ」製作委員会 |
| | 一隅社 |
| | クロスフィット |
| テーマ曲 | 不屈の民 |
| | (SERGIO ORTEGA & QUILA PAYUN) |

「えんとこ」とは
東京世田谷の住宅街にあるマンションの一室2DKが、遠藤滋と介助の若者達の居場所。この物語の舞台です。
遠藤の居るところであり、緑のあるところ、という意味で「えんとこ」と名付けられた、そこには生かし合う日々の暮らしがあります。

他人に言えない傷を
持つ者もたくさんいます
ここでは誰せり
祝福されています
ーイサミー

「遠藤君はまじっか
そんなさすいっかいいまっ
武藤(ム)くん」
僕にとっては「ヒマな時友人宅に
あがり込んで勝手に本を読んだり
変ったり寝たりしているだけ」です。
ヨシモト

なんだか居心地がいいです。
あと、意外な自分がみつけ
られるかも? イタニ
ほっかしくて、あ、たがい。
泉田

「えんとこ」上映委員会 [いせフィルム内]

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-3-7 青山N-ブリックビル3階
TEL:03-3406-9455 FAX:03-3406-9460 E-mail:ise-film@rio.odn.ne.jp

大倉山ドキュメンタリー映画祭 in 大倉山秋の芸術祭2018

☆日時 11月4日17:30~19:40 ☆開場は上映の10分前 ☆上映後監督によるトークがあります。
☆会場 大倉山記念館 第10集会室 東急東横線・大倉山駅下車 徒歩8分 横浜市港北区大倉山2-10-1
☆入場料 1000円 (小学生以下無料) ☆問合せ 090-6190-8588(三浦)